

桜蔭俳話会

第一三二回通信句会 通信結果

平成三十一年冬。選句数は五句、うち特選一句。

(○内の数字は、特選数で、選句の内数です)

1点	セーターの網目に青きラメ光る	明美	塵の旅人羽毛布団の砂丘	秀夫	
5点②	来し方を刻む皺なり初鏡	友子	4点①西に入る寒満月や透きとほる	ヤエ子	
3点	今際まで女優でありし狐かな	秀夫	4点①改元へ百二十日初日記	友子	
	小春日に回るそば屋の水車かな	幸子	1点	嵐止み全身汗の初湯かな	直子
1点	初富士と対座や野天湯気の中	安紀子	2点	バレリーナ翔ぶ月明の大鏡	才美
	ふえるなり外国人や成人の日	眞三	2点①	ふくらかな御仏の笑み冬日向	安紀子
3点	御言葉の沁みて天皇誕生日	のり子	6点	初夢や父の抑留模糊として	幸
3点	天空に綾を描いて冬の鶯	幸	2点①	小じんまりまとまり光る冬の薔薇	眞三
4点	あれこれの抽斗たのし冬籠	才美		歳末のデバ地下に聞く中国語	幸子
1点	嬰兒をあやす初風呂初仕事	則敏	2点	寒の入り用のなきもの溢れけり	守
7点③	冬波や光る空母のカタパルト	守	2点①	忍ぶ恋ドアを開ければ日脚伸ぶ	眞壽
	四季咲の黄バラふるえる霜の朝	幸枝	1点	耀の熱気終はりし場外冬さるる	明美
	初春やエアロビに行く小雨降り	直子	3点	光にも力出て来て春近し	幸枝
3点①	寒灯や己の影を照らしをり	眞壽			
3点	食む数は齢を越えず節の豆	邦子			
7点③	薄墨の筆流麗や寒見舞	ヤエ子			
4点	年迎ふ意気込みもなし酒の爛	眞壽			
1点	空堀に落ちし榎檀や色の増す	幸			
2点	法外な祝儀値付けり初市場	友子			
1点	匿名の寒暮の街の神隠し	守			
3点	果つるまで歩み止めぬか枯蝻螂	安紀子			
6点①	懐に愛犬のをり寒の入	ヤエ子			
	冬の芽や我先出る日溜りに	則敏			
4点	冬ぬくし日差し背負ひて畑仕事	幸子			
1点	文机光ゆるみて水仙花	邦子			
5点②	旅人のための日溜まり冬青草	才美			
5点④	半ばまで冬帽の呑む頭蓋骨	秀夫			
2点	吾の誕生日ひときわ大き冬の月	幸枝			
	初場所や満員札止め続きけり	眞三			
	初日待つ老人ホームも皆マスク	直子			
3点	波止の陽に飽きしか沖へ冬かもめ	明美			
3点①	気合入れ太き大根買ひにけり	のり子			
	ワン切りのスマフォにての初電話	則敏			
	テレビ越しの除夜の鐘かな時代終ふ	のり子			